

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	宇治田原町役場 庁舎棟	階数	地上3F
建設地	京都府宇治田原町	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条区域	平均居住人員	150 人
地域区分	5地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2019年2月22日
敷地面積	14,916 m ²	作成者	㈱内藤建築事務所
建築面積	2,001 m ²	確認日	
延床面積	4,005 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★★★★★

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

100% 80% 54% 54%

-642355346013652275101392460469238 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能 5

Q1 室内環境 4

Q3 室外環境(敷地内) 3

LR1 エネルギー 3

LR2 資源・マテリアル 2

LR3 敷地外環境 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>建物は高い耐震性(重要度係数1.5)を確保し、災害時用受水槽や非常用自家発電機を設置するなど災害に強い建物としています。建物内外には、多目的室・芝生広場など地域住民が利用可能なスペースを設けており、開かれた施設としています。また、地域産木材の多用や、建物下部に雨水抑制槽を設けるなど環境に配慮した計画としています。</p>	<p>その他</p> <p>建物外装・内装材に使用する木材は、出来る限り地域産木材の使用を計画しています。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>室の用途に合わせた細かいゾーニング計画を行い、ホールや本会議場など、天井の高い吹き抜け空間には、床吹き出し空調方式を採用するなど温熱環境に配慮した計画としています。また、内装材は全てF☆☆☆☆建材を採用</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>執務室の天井高は2.7m以上とし、十分な面積のリフレッシュスペースや自販機コーナーを設けるなど居住空間に配慮した計画としています。大型のゴミ庫の設置、各階に清掃用具庫・清掃流しを設けるなど維持管理にも配慮してい</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>複層ガラスや断熱性の高い外壁、庇を設けるなど、熱負荷の軽減に配慮しています。また、太陽光発電装置を設置するなど、自然エネルギーの利用を行っています。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>エコマーク建材や節水型衛生器具を採用するなど環境に配慮した計画としています。躯体と仕上げ材は容易に分別が可能であり、フリーアクセスフロアなど再利用可能なユニット部材を採用しています。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建物利用者のために十分な駐輪場・駐車場を確保する計画としています。また、建物地下に降雨強度120mm/hを想定した雨水抑制槽を設置しています。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される